



校長講話

▷67◁

永池 啓子 横浜市立白幡小学校校長

入学式で必ず使う絵本があります。それは「いのちのまつりーヌチヌグスーシ」(サンマーク出版)で、恩師から頂いた宝物です。

「ぼうやにいのちをくれた人は誰ね〜?」
「それは……お父さんとお母さん?」
「そうだねえ。いのちをくれた人をご先祖さまと言うんだよ」

『ねえ、おばあさん、ぼくのご先祖さまって何人いるの?』
「ウーちゃん、指をさして数えてみることにしました。すると……びっくりするよな仕掛けが……」

自分が生まれたことの奇跡、命の尊さ、ご先祖さまへの感謝を教えてくれる絵本です。

「いのち」をテーマにする

話を大切にしています。「いのち」というのはね、目に見えないんだよ。いのちは、君がこの世で使うことのできる時間なんだ」「きみの『いのちの時間』を他のいのちのため

いのちの時間

に使わなければいけないよ。人はそうやって、お互いの『いのちの時間』を分け合っ

ていきっていくものだよ」
朝会では、これらの日野原重明先生のメッセージ(「子どもを輝かせる10のお話」実業之日本社)を伝えました。

2年生のAさんは、この話を受けて、図書館に「いのちの時間」の絵本があることに気が付き、校長先生の話がも

っとクラスのみんなに分かるようにと読み聞かせをしてくれました。3年以上の学級では、「人のために、『いのちの時間』を一日どれくらい使っているのだろうか?」と1日を円グラフにして過ごし方を考え、話し合ってくれました。子どもたちは、初めは大切ないのちの時間をいかに他の人のために使っていないか

ショックを受けたようでした。しかし、「そうか、掃除が先に終わったら終わらないと

ころを手伝う、そんなことでもいいんだ」「授業中だってみんなで力を合わせて問題解決していることも、いのちの時間を大切に支え合っているんだね」ということに気付いていきました。

「いのち」は自分に与えられた時間、「人のために使う時間」を大切に考えていけたら、どんなに幸せな社会が築けることでしょう。